



トンボ

CSRレポート 2008

2007.7.1~2008.6.30



人と自然を大切にした価値ある製品づくりを



ベニトンボ (♂ 成熟)

ベニトンボは東南アジアなどの熱帯、亜熱帯地域に広く分布、色は鮮やかな赤紫色。

国内では1981年10月に石垣島で初めて見つかリ、その後、2007年には九州、四国の徳島でも個体が確認されました。その要因の一つとして「気象変動」で日本も亜熱帯化が進行している、と言われております。

トンボは環境変化の良きガイドです。



編集にあたって

「トンボCSRレポート2008」は、昨年の2007（第1号）をベースに、皆様から多数のご意見・ご感想を頂き、トンボのCSRへの取組みをできるだけわかりやすくお伝えできるように心掛けました。

編集にあたっては、委員会組織もCSRレポート編集委員会からCSR推進委員会に変え、メンバーも増員を図り、前半は勉強会、社内への意見収集を中心に行い、CSR経営の突破口にする思いで発行致しました。また、今号の表紙は、トンボが2匹雄飛しています。今後、その数の増加に合わせてCSRレポート内容の充実を図って参ります。

尚、アンケート用紙を添付していますので、皆様からのご意見・ご感想をお聞かせ願います。今後の報告書づくりに反映させ、一層の充実を図って参りたいと思います。

INDEX

| | |
|---------------------|----|
| 会社概要 | 3 |
| トップメッセージ | 5 |
| トンボのCSR | 7 |
| ガバナンス体制 | 9 |
| ハイライト | |
| トンボマイスター制度の創設 | 11 |
| 検反機導入 | |
| マンモグラフィ検査用ケーブル | 12 |
| TOMBOW WIN | |
| 環境活動報告 | |
| 環境方針 | 13 |
| 事業所における環境負荷低減への取り組み | 14 |
| リサイクル・環境負荷低減 | 15 |
| 社会とのかかわり トンボの縁で広がる輪 | 17 |
| トンボ絵画コンクール | 19 |
| 環境コミュニケーションと地域貢献 | 20 |
| 社会的活動報告 | |
| ビクトリースポーツ教室 | 21 |
| 制服着こなしセミナー | |
| ユニフォームミュージアム | 22 |
| 財団法人 八正会 | |
| 健全な企業風土づくり | |
| 私たちは守っています | 23 |
| いきいきと働ける職場づくり | |
| 制服と青春の思い出 | 25 |
| トンボひとくちメモ | 26 |

会社概要

社名 株式会社 トンボ

URL <http://www.tombow.gr.jp>

会社設立 大正13年5月10日(創業:明治9年)

資本金 1億8千万円

代表者 取締役社長 落司 量則(おとし かずのり)

従業員数 670人(2008年4月末現在)

本店所在地
玉野本社工場 〒706-0224 岡山県玉野市八浜町大崎1212
TEL.(0863) 51-1515 FAX.(0863) 51-2526

事業所所在地
本社事務所 〒700-0985 岡山県岡山市厚生町2丁目2-9
TEL.(086) 232-0311 FAX.(086) 225-4094

東京支店 〒136-0071 東京都江東区亀戸2丁目34-4
TEL.(03) 5626-2251 FAX.(03) 5626-2265

横浜ランチ 〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2丁目3-10
フロンティア 新横浜8F
TEL.(045) 473-8705 FAX.(045) 473-8719

大阪支店 〒540-0025 大阪府大阪市中央区徳井町2-1-1
TEL.(06) 6942-5551 FAX.(06) 6942-5549

岡山支店 〒700-0977 岡山県岡山市間屋町22-101
TEL.(086) 241-7830 FAX.(086) 241-7856

広島営業所 〒733-0842 広島県広島市西区井口5丁目3-4
TEL.(082) 270-5121 FAX.(082) 270-5123

兵庫出張所 〒672-8071 兵庫県姫路市飾磨区構1丁目94
TEL.(0792) 31-2522 FAX.(0792) 33-4522

松江営業所 〒690-0047 島根県松江市嫁島町13番5号
TEL.(0852) 23-3211 FAX.(0852) 27-5387
2008年7月開設

福岡支店 〒811-2207 福岡県糟屋郡志免町南里6丁目8-1
TEL.(092) 937-3730 FAX.(092) 937-3750

ユニフォーム
研究開発センター 〒706-0224 岡山県玉野市八浜町大崎1212
TEL.(0863) 51-1517 FAX.(0863) 53-9009

岡山工場 〒700-0034 岡山県岡山市高柳東町8-1
TEL.(086) 252-1131 FAX.(086) 253-4432

美咲工場 〒708-1523 岡山県久米郡美咲町吉ヶ原954
TEL.(0868) 62-0122 FAX.(0868) 62-0797

玉野物流センター 〒700-0034 岡山県玉野市八浜町大崎1212
TEL.(0863) 51-1522 FAX.(0863) 51-1243

紅陽台物流
センター 〒706-0134 岡山県玉野市東高崎25-8
TEL.(0863) 71-4466 FAX.(0863) 71-4471

藤田物流センター 〒701-0221 岡山県岡山市藤田916-3
TEL.(086) 296-3700 FAX.(086) 296-7496

「事業内容」

スクールユニフォーム、スポーツウエア、
ビジネスユニフォーム、介護ウエアなどの
企画、製造、販売

「関連会社」

北海道トンボ株式会社
秋田トンボ株式会社
宮城トンボ株式会社
福島トンボ株式会社
関東トンボ株式会社
茨城トンボ株式会社
株式会社トンボ繊維
長野トンボ株式会社
株式会社トンボメイト
徳島トンボ株式会社
グローイング株式会社
南九州トンボ株式会社
株式会社マイク
トンボソーイング株式会社
サントンボ服装株式会社
株式会社ハートヒルズ
株式会社トンボシステム
株式会社トンボ保険サービス



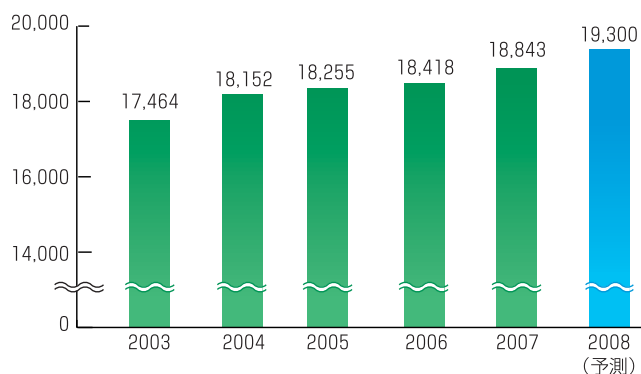


サラサヤンマ

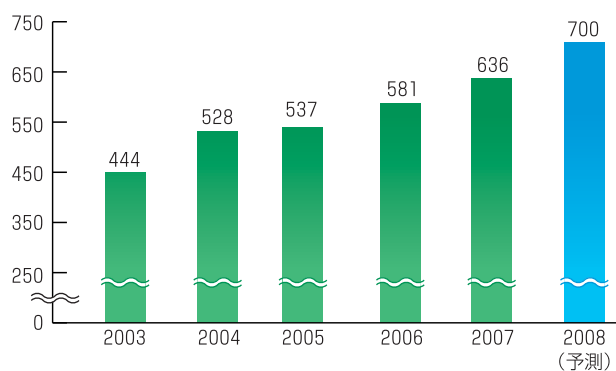


本社ビル(岡山市)

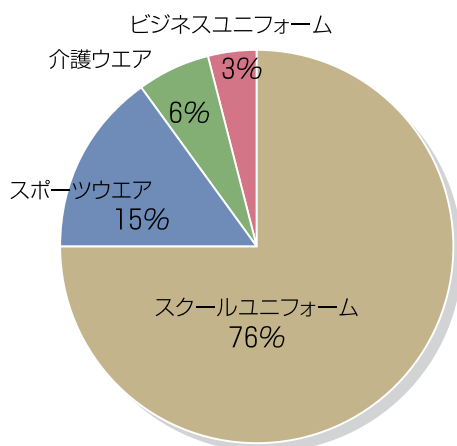
■売上推移表(単体)(単位:百万円)



■経常利益推移表(単体)(単位:百万円)



■売上高構成比率



■主要ブランド





「人と自然を大切にした価値ある製品づくりを」 スローガンに込める100年の教訓



代表取締役社長

落 司 量 則

コーポレートスローガンの役割

人は、成ろうと思う自分になると言われます。

クリントン前アメリカ大統領が、学生の頃、ジョン・F・ケネディ大統領と握手して感激し、自分もこんな大統領になりたいと思って、やがて夢を実現したのは有名な話で、それから名文句『その人がどんな人でも、大統領になろうと思わなければ、大統領にはなれない』が生まれました。

このことを人を育てる視点から解釈すると、どうなりたいのか目標と方向がはっきりすること、そして、生活のあらゆる局面を目標に照準させ突き進むことが重要だという教訓が浮かびあがってきます。

企業にもこれと同じことが言えると思います。

どこにパワーを向けるか、社員全員にわかるよう、まず目標をサーチライトで照らし出す必要があります。

そして、当社の場合、そのサーチライトに相当するのがコーポレートスローガンなのです。

スローガンが意味するもの

スローガン『人と自然を大切にした価値ある製品づくりを』について、少し触れて見たいと思います。

今から23年前、創立110周年の節目にあたり、論議された内容が2つありました。

1つは、制服のご縁で、日本の将来をになう生徒の皆さんと深く関わり、学校と教育をしっかりとウォッチする立場にあるメーカーとして、当社の方向性をどうするかということでした。

その論議から、自然環境をしっかりと観察し、触れ合い体験を良い思い出に残す「We Love トンボ」絵画コンクールが提唱され、ここから「自然環境に配慮する企業」がキーワードとして浮かんできました。

2つ目は、私たちが作っている商品の社会的存在価値は何かを方

向付けることでした。

結論でいうと、私たちが作るユニフォームは、単なるファッションやトレンド表現などではなく、人のやる気や気分には大きな影響を与え、学校や会社のイメージと業績を左右するものであり、また、人が長時間着ても心地よいものを追求するというものでした。

これは、その後の商品開発や製造、販売活動の指針として反映されてきたわけですが、ただ、方向性の明示という点では、少しわかりにくかったかもしれないので、改めてスローガン化したわけです。

100年かけて、はじめてわかったことがある

スローガンには、それ以外にもさまざまな思いがこもっています。

本年、経営年度で100期の節目を迎えるにあたり、振り返って、いくつかが気がついたことがあります。

それは『当たり前のことをきちんと行なう』日々の積み重ねの上に今日があるということです。

日々の業務を通じて、商品と営業でうそをつかない、ごまかさない、隠さないといったことを実践してきたことが、信用を築きビジネスの力になっているのです。

CSRなどという言葉のなかった時代から、実質的にCSR経営だった。

そう考えたとき、このスローガンが見えてきたのです。

革新の連続が伝統だ

また、100期という数字の意味を考える時、忘れてならないのは、毎年毎年を、業界の最先端であろうと努力し、新たな課題に挑戦し、革新してきた連続の結果であるということです。

老舗の仲間入りをしたからといって、伝統に安住したとたんに将来は曇ってきます。

次の100年をめざし、CSR経営を貫く意味でも、虚心坦懐に、日々新たに、スローガンを実践することが大事だと考えています。



ウチワヤンマ

経営年度100周年

2008年（平成20年）は、当社の経営年度100年目、会社経営1世紀を超える節目にあたる記念すべき年です。日本には、法隆寺や四天王寺を建立した世界最古と言われる企業をはじめ、長寿企業がたくさんありますから、100年などは、まだまだ『ひよっこ』にもなれない年月かもしれません。しかし、経営とは、何が起きるかわからない障害物レースのようなもので、決算月には表彰台に上げられるかどうか胃が痛む思いもしなければなりません。ランナーは交代してきたとしても、そのレースを100年続けてくる事ができたのは幸せなことでありませう。これからの50年、100年を考えるに当たり、この中味をしっかりと分析し、次からは、それを必然化させる発想とともに、今までやってこなかった手法にチャレンジする勇気が大事だと考えています。

代表的商標の歩み

◎足袋製造時代の主力商標は、キラク

瀬戸内特産の綿花を使った足袋がヒットした時代の主力商標はキラクでした。創業者の母親の名を『亀』と言い、その亀さんを楽にさせたい、だから亀楽の意味でキラクとなったと言われています。その後、キラク商標はしばらく休眠していましたが、1997年（平成9年）、介護衣料を始めるに当たり、キラクを、人生を例える『喜怒哀楽』から怒りと哀しみを取り去った「喜楽」と読み替え、新生キラクが立ち上がり今日に至っています。



キラクの商標（明治43年頃より）

◎トンボ商標

アサヒトンボ商標は、当初、キラクに続く足袋商標の代名詞でした。1930年（昭和5年）、学生服製造を始めるに当たり、市場に早く浸透するため、その知名度を生かしアサヒトンボ商標が用いられてきましたが、学生服事業が拡大するにしたがって、呼びやすさや親しみやすさからトンボが一本立ちし、『トンボ学生服』となり、今日に至っています。トンボ商標は、創業80年史（1956年刊）によれば、「日本は世界一蜻蛉（とんぼ）の多い国であります。日本の国を秋津洲（アキツシマ）ともいい、この「秋津」とはトンボのことです。即ちトンボは日本を表徴し、しかも子供に親しまれる益虫であります。更に「アサヒ」は将に太陽の天に昇るところ即ち日出づる国として、日本の表徴であります。ここのアサヒにトンボを組み合わせた図柄は、我国の発展を祈る真心より弊社の商標といたしたものであります。」の記述があります。

| | | | |
|-------------------------|--|---------|--------------------------------|
| 戦前に使用の アサヒトンボの商標 | | 昭和30年より | トンボ学生服 Tombow |
| 昭和23年より使用の アサヒトンボの商標 | | 昭和49年より | Tombow® |
| 昭和30年より使用の トンボの商標 | | 平成元年より | TOMBOW |
| | | 平成18年より | トンボ学生服 TOMBOW |

沿革

| | |
|--------------|---|
| 1876年（明治9年） | ●三宅熊五郎により創業 |
| 1908年（明治41年） | ●初代社長三宅保正が事業を継承 |
| 1910年（明治43年） | ●「キラクたび」を主要商標として登録 |
| 1924年（大正13年） | ●法人設立、帝国足袋株式会社と称す |
| 1930年（昭和5年） | ●学生服の生産・発売を開始。現在のトンボ学生服の第一歩である |
| 1944年（昭和19年） | ●帝国興業株式会社に社名変更 |
| 1945年（昭和20年） | ●学生服・足袋再生産開始 |
| 1947年（昭和22年） | ●紡績部門を設ける |
| 1955年（昭和30年） | ●学生服・作業服・トレーニングパンツJIS規格表示許可工場となる |
| | ●テロン製品生産開始 |
| 1965年（昭和40年） | ●丸洗い（ハイウェイ）学生服誕生 |
| 1971年（昭和46年） | ●スポーツウエア専門棚原工場建設 |
| 1974年（昭和49年） | ●テイコク株式会社に社名変更 |
| | ●本社事務所岡山に移転 |
| | ●岡山工場 新築移転 |
| 1976年（昭和51年） | ●創業100周年 |
| | ●S.I（スクールアイデンティティ）提唱 |
| | ●オンラインシステム導入 |
| 1979年（昭和54年） | ●本社事務所 岡山駅前に移転 |
| 1982年（昭和57年） | ●玉野流通センター完成 |
| 1983年（昭和58年） | ●業界初のウール50%ウォッシュブル学生服誕生 |
| 1984年（昭和59年） | ●本社工場コンピュータ・グレーディング・マーキングシステム導入 |
| 1986年（昭和61年） | ●創業110周年記念事業として「WELOVEトンボ」絵画コンクールを始める |
| 1989年（平成元年） | ●デザイナー山本寛斎氏と提携、「KANSAI SCHOOL FORM」販売開始 |
| 1990年（平成2年） | ●デザイナー桂由美氏と提携し、ビジネスユニフォーム販売開始 |
| 1993年（平成5年） | ●本社工場内にカットセンター設立と自動裁断システムの導入 |
| 1994年（平成6年） | ●デザイナー中野裕通氏と提携し「ヒロミチナカノスクール」販売開始 |
| 1996年（平成8年） | ●創業120周年事業としてユニフォーム研究開発センター設立 |
| 1997年（平成9年） | ●介護、リハビリウエア「KIRAKU」販売開始 |
| 1999年（平成11年） | ●ISO9002品質マネジメントシステム（QMS）認証取得 |
| 2001年（平成13年） | ●ISO14001環境マネジメントシステム（EMS）認証取得 |
| | ●「コムサデモード・スクールレーベル」販売開始 |
| 2002年（平成14年） | ●ISO9001品質マネジメントシステム（QMS）認証取得 |
| | ●本社事務所 岡山市厚生町に移転 |
| 2003年（平成15年） | ●「オリーブ デ オリーブ・スクール」販売開始 |
| 2006年（平成18年） | ●ISO14001環境マネジメントシステム（EMS）認証取得（全13事業所） |
| | ●創業130周年 株式会社トンボに社名変更 |
| 2008年（平成20年） | ●新本社工場・物流センター完成予定（11月） |



トンボグループのCSR

ユニフォームの役割は、人に快適であり、ユニフォームを採用された学校や企業、機関、グループのアイデンティティ作りや、働き、学ぶ意識をつくるお役に立つことです。

ユニフォームサプライヤーとしてのトンボグループが、もしCSR^{※1}精神に反するような行動をすれば、お客様のイメージや価値を損ない、着る人を嫌な気分させることになるかもしれません。

そのことを肝に銘じてCSR経営を心がけていきたいと思えます。

トンボ経営理念

私たちの使命

トンボブランドのもと、
最良のユニフォームメーカーをめざし、
社会に役立つ確かな価値を創造し、提供します

私たちの行動指針

- ・愛と汗の精神で、人を大切にし、全員経営をめざします
- ・信用を重んじ、約束を守り、誠実に行動します
- ・縁を大切にし、相手の立場を尊重します
- ・社会に役立つ、心の通った開発をめざします
- ・自然と環境に配慮した活動を行います

■コーポレートスローガン

『人と自然を大切にした価値ある製品づくりを』

コーポレートスローガンは、「最良のユニフォームメーカー」をめざす企業姿勢を、シンボリックに言い換えたものです。

スローガンの意味

スローガンは、私たちがお届けする制服価値のあり方と、ものづくりの基本的な考え方に触れたものです。
ユニフォームに求められる、用途に応じた機能や耐久性、着やすさの実現はもちろん、働いたり学んだり、スポーツをしたりするための、モチベーションを高め、気持ちを整え、信頼を得る商品のあり方と、サステナビリティ^{※2}を重視した企業活動を実践する決意が込められています。

メーカーとしてのあり方

同じ学校や組織に属する人々ひとりひとりに、満足して着ていただけることを目標に、様々なデザイン、数量、サイズや納期でも対応できる設備と規模のあり方とノウハウを示しています。

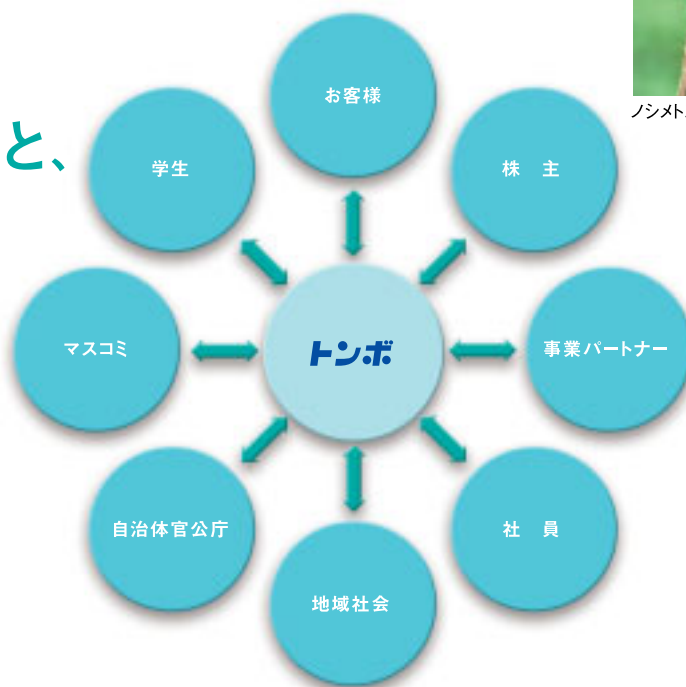
※1 CSR (Corporate Social Responsibility) 企業の社会的責任。社会における企業のあり方、地域社会の中での役割・貢献・責任

※2 サステナビリティ 企業が利益を上げ、将来においても顧客に製品を供給し続けられる可能性を現在において持っていること



ノシメトンボ

当社のステークホルダーと、 主なコミュニケーション



当社の営業活動はすべて、ステークホルダー※の皆様
の信頼を得るためにも過言ではありません。

商品の性質上、マスコミ露出の機会はいくつありま
せんが、それゆえに、コミュニケーション手法と、お伝え
する内容を工夫しています。

| ステークホルダー | 主なコミュニケーション手法 |
|----------------|--|
| お客様 | お客様相談室 ユニフォーム総合展示会・ エコプロダクツ展・国際福祉機器展 等 商品カタログ 学校向け制服情報誌「スクーラー」 小売店向け情報誌「エスキューブ」 制服着こなしコミック「ガクスタ」  |
| 株主 | 株主総会 決算報告書 社員持株会 |
| 事業パートナー | 販売代理店・販売店研修 品質改善会議 販売会社・協力工場・仕入先オンラインシステム  |
| 社員 (社員・OB) | 社内情報共有システム(トンボネット) 社内報 キラク親睦会(会社概況説明会・親睦会)  |
| 地域社会 |  工場見学会(学校社会科見学) チャレンジワーク(中・高校生) 各種協賛(校内広報板提供) 社会貢献活動(河川清掃・ビクトリースポーツ教室) |
| 自治体官公庁 マスコミ | プレスリリース 取材対応 各種経済指標報告 |
| 学生 | 会社説明会 インターンシップ受け入れ リクルート冊子  |
| 全体 |  環境・CSR推進室 環境事業企画室 ホームページ CSRレポート 会社案内 会社経歴書 |

※ステークホルダー 企業活動に関する利害関係者。



ガバナンス体制

コーポレートガバナンスの考え方

当社は、客観性と透明性の高いガバナンス体制を構築していきたいと考えています。企業統治の仕組みにおいては、ステークホルダーとの良好な関係と、持続的な企業価値向上の為に、「取締役会」「経営会議」「管理者会議」による意思決定の仕組みを設けています。また、監査役による監査を実施しています。



CSR推進体制について

当社はユニフォームの製造販売を主事業としており、学校教育現場とのかかわりは特に強いものがあります。多くの児童生徒さんや学校関係の皆様との強いつながりがあり、企業とそこに働くものの役割・責任はたいへん大きく且つ重要なものと考えています。

社会に役立つ企業、お客様に満足していただける企業になることが必要です。また企業は永く続くことも使命です。持続可能な成長を遂げ、社会と調和した活動を行うことができるよう社員全員がしっかりとした認識のもとに取組むことが必要です。そのためには社員が楽しく働ける職場環境整備も大切です。このような考えのもと、下記の課題に取組んでいます。



環境・CSR推進室長
常務取締役 田窪 啓二

CSR推進課題

①環境課題への取り組み

CO₂排出量削減と自然環境保全活動推進に向けて、ISO14001※1に基づく環境マネジメントの推進

②コンプライアンス※2の強化

法律・条令・各種協定等の社会的要請を適時適正にとらえ対応してゆく組織体制の構築

③リスクマネジメント※3

社内外の変化、変動に対し、臨機応変に対応する体制の構築

④社会環境変化への対応

行財政や司法、IT化等、社会環境の変化に迅速且つ柔軟に対応する体制構築

⑤コーポレートガバナンス※4体制の確立

グループ連結経営の推進と統治体制の構築

※1 ISO 14001 ISO (国際標準化機構) が定めた企業活動、製品およびサービスによって生じる環境への負荷低減等、環境経営に関する国際標準規格。

※2 コンプライアンス 法令順守・企業倫理の確立。

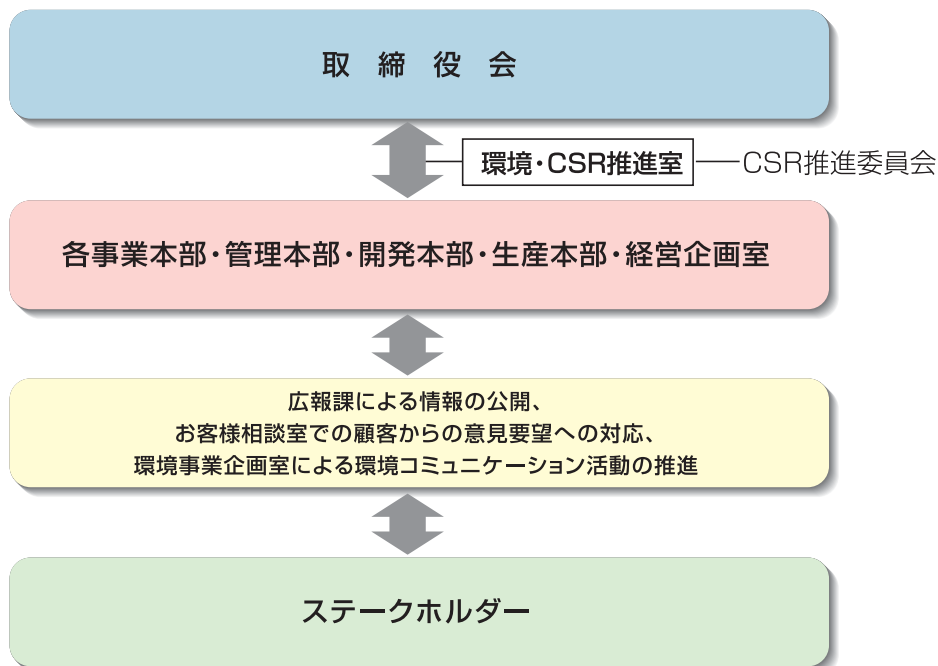
※3 リスクマネジメント 企業を取り巻くさまざまなリスクを分析し、対策を講じることで企業の存続・経営目標の達成を図る経営管理手法。

※4 コーポレートガバナンス 企業統治、内部統制。企業が社会や個人のために、健全で持続的な企業活動を行なうための仕組み。



トラフトンボ

CSR推進体制



品質認証部 お客様相談室

お客様相談室の仕組み

メーカーとして、よりの確ですばやい『お客様の立場に立ったフォロー』を行なうため、専任体制でスタートしたお客様相談室は、2007年7月の開設以来、たくさんのお問合せを頂いています。連絡は主にフリーダイヤル、電子メール、中には商品とともに手紙をいただく場合もありますが、即時対応を原則とするため、社内関係部署との緊密な連携が欠かせないものとなっています。

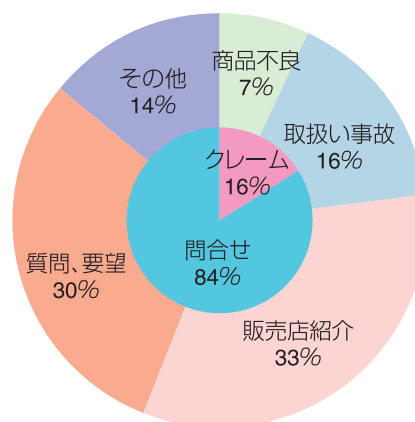
お問合せの内容

お問合せは、10ヶ月累計で660件、その内訳は表の通りです。一番多いのは、購入方法に関するもので、「どこへ行けば買えるか」「どこかでまだトンボの〇〇商品売っていないか」などです。中には商品を特定しにくいケースもあるのですが、無事お客様の手に届き、お礼の言葉を頂いた時は相談室冥利につきます瞬間です。また、きついお叱りを受けることもあります。その内容が、その商品のみの事情ではなく、商品設計や材質に起因するものについては、すばやく関係全部署と情報共有し、抜本的な改善策を講じています。皆様方からいただいた多くのご意見、ご要望は今後の営業活動や商品開発でぜひ反映させたいと考えています。

お客様相談室フリーダイヤル
☎ 0120-314-253



品質認証部 お客様相談室課長
藤原 正志



2007年7月～2008年4月まで



ハイライト

経営年度100周年を迎え、トンボは『最良のユニフォームメーカー』をめざして、更に進化し成長し続けるために、色々な制度・仕組み・新商品等を実現しています。

今号より、そういった旬なトピックスをご紹介します。

■トンボマイスター制度の創設

当社では、今後の10年間に4分の1程度の社員が定年を迎えることとなります。

そこでユニフォームメーカーとしての基盤となる、物作りの固有の技術や技能を、次世代に伝授し、更に品質の向上を図るにはどうしたらよいのだろうか？

このような思いから、生まれたのがトンボマイスター制度です。

この制度の概要は次の通りです。

(1) 呼称と資格条件

1) 「マイスター」・・・3ランクあります。

- 縫製作業・パターンメイク・縫製機械整備・商品企画などの各分野において、高いレベルの技術・技能を保有している人。
- 後輩の指導・育成や部門を越えての技術的な問題点の調整ができる人。

2) 「インストラクター」・・・2ランクあります。

- 裁断・縫製・手縫い・仕上げなどの各工程で高いレベルの技術・技能を保有している人。
- 後輩の指導・育成ができる人。

(2) マイスター・インストラクターの役割

- 後輩への実務指導・育成。
- 指導を行う為に必要なマニュアルの作成。
- 品質のレベルアップの為にのアドバイス。 など

(3) 資格認定機関

1) 上司による推薦を受け、「マイスター審査委員会」(関係役員と部門長による)にて審査、役員会において最終決定します。



2) 審査委員会において、年に一度4月に新規資格認定及び既認定者の見直し判定を行ないます。

(4) 資格認定の手当

- 毎月ランクに応じて、手当を支給します。

(5) 現在の資格認定者

- 1) マイスター :小池秀登
- 2) インストラクター:中川雅文、三嶋節子、三宅洋子、林恵美子、山崎さくえ

この制度を十分に活かして、メーカーとしての基盤をより一層強固なものにして参ります。

総務部長 安田 邦夫

■検反機導入

玉野本社工場カッティングセンター内に、2007年8月までに、2台の検反機を導入しました。

目的は、生地のカズ・汚れ等を未然に発見し、お客様に満足いただける商品をお届けして、品質向上を図るためです。

文字通り生地のカズ等を検査する機械ですが、裁断する前工程で検査を行なうことにより、以後のカズ・色ブレによる裁替えや減産を未然に防ぐことが出来、業務効率の向上に貢献しています。(従来は、裁断後のパーツ検品を実施していた)

検査データは、定期的に生地メーカーへフィードバックすることで、今後の品質改善に繋がっています。

また環境目標に掲げている、ごみの減量化にも繋がっていると思われます。今後も裁断くずを分別回収して資源の再利用・CO₂の削減など既にも実施していることと併せて、更に環境活動を拡大して行きたいと考えています。



スクール生産部 資材課長 小坂 隆行



シオヤトンボ

■「キラク マンモグラフィ検査用ケープ」

乳がんの早期発見に有効だと言われているのが、マンモグラフィ(乳房専用のレントゲン撮影)検査です。しかし、マンモグラフィ検査は上半身裸で行われることがほとんどで、初めて受診された方は驚きと羞恥心で戸惑われたという声を多く聞きます。私も初めて検査を受けた時には衝撃を受け、若い女性の受診率が低いということを知りました。

キラクでは、この部分にスポットをあて、女性の視点から、専用のケープを開発しました。(実用新案申請中)

このケープを使って頂くことで、女性の羞恥心の軽減を図り、1人でも多くの女性が、乳がん検診を受診し、早期発見ができることを心から願っています。

キラク事業部 チーフデザイナー 樋口 久美子



「J.POSH 日本乳がんピンクリボン運動」

株式会社トンボは NPO法人J.POSH日本乳がんピンクリボン運動のオフィシャルサポーターとして、活動を支援しています。

<http://www.j-posh.com>



■TOMBOW WIN

2007年6月に体育衣料の新ブランドとして「TOMBOW WIN」を発表しました。「こんな体操服ほしかった」「いつも心地よい」と評価される学校体育衣料をめざして、学校体育衣料の本流・本質を追求し、耐久性・イージーケア性・快適性能・着装心理を考えたものづくりをコンセプトとするブランドです。また、PETボトルリサイクル糸や竹を原料にしたレーヨン糸などを使用した環境配慮型商品でもあります。

商品特徴

- ①快適性…人間工学に基づいた設計(エルゴデザイン)
- ②機能性…衣服内の温度・湿度を快適に保つ仕様(ベンチレーション)
- ③利便性…小・中・高一貫校対応、豊富な色数による学年色対応
- ④環境性…PETボトルリサイクル素材+バンブーレーヨン素材、高耐久性
- ⑤安全性…交通安全に配慮(再帰反射材使用)

スポーツ企画部 係長 高橋 聡一



環境方針

基本理念

株式会社トンボは、創業時よりのブランド「**トンボ**」を旗印として、最良のユニフォームメーカーをめざし、地球環境の保全が最重要課題の一つであることを全社員で自覚し、次世代に向けてトンボが雄飛する美しい地球環境のもと、豊かで住みよい循環型社会を実現する企業活動を展開し、社会に貢献します。

基本方針

1 環境マネジメントシステムの確立と継続的改善の推進

私たちは、国際規格に基づいた環境マネジメントシステムを構築し、実施し、維持し、定めたテーマに沿って、環境パフォーマンスの継続的な改善活動を推進します。

2 環境保全活動の推進

私たちは、環境に与える影響を認識し、評価し、汚染の予防を含めて、環境影響を考慮した企業活動を展開します。

3 環境上の法的要求事項及びその他の要求事項の順守

私たちは、当社の環境側面に関係して適用可能な法的要求事項及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。

4 企業活動の展開

私たちは、ユニフォームウエア等の企画、設計、製造、販売において、環境影響を考慮し、また地球温暖化防止に向け、日常業務と一体化した活動を展開します。

- ①環境に配慮した素材の導入と製品開発・販売の推進。
- ②使用原材料に含まれる有害物質の安全基準の順守。
- ③資源の有効活用及び省エネルギーの推進によるCO2排出量の削減。
- ④3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進。

5 自然保護活動の推進

私たちは、以下の自然保護活動を推進します。

- ①トンボ環境委員会活動の推進。
- ②トンボ絵画コンクールへの協賛支援。
- ③トンボと自然を考える会への協賛支援。
- ④学校のヒオトづくり、環境学習への側面支援。

6 環境方針の周知徹底と公開

環境方針は、社員並びに当社の企業活動への協業者に環境教育を通して周知し、全員が理解、実践できるよう啓発活動を推進します。

また、この方針は広く一般の人々に公開して、社会と共生する環境活動を推進します。

7 環境方針の見直し

定めた環境目的・目標が状況の変化に適切できるように、また環境方針が当社にとって適切かつ有効であり続けるように、私が見直しを行います。

2008年7月1日宣言

代表取締役社長 **落司 量則**



■グリーンアイとは

地球環境の保全は世界中の使命であり、私たち一人ひとりの使命でもあります。トンボは、さまざまな角度から、地球環境を守るための活動を積極的に行っています。私たちの企業活動が社会に貢献し、地球を守ることにつながっていく、その活動の総称が「グリーン・アイ」です。





ナツアカネ

事業所における環境負荷低減への取り組み

《内部監査および外部審査》

■内部監査

年1回、全事業所と経営者及び環境管理責任者、EMS推進本部事務局を対象に内部監査を実施します。内部監査チームメンバーは、リーダーを中心にして内部監査チェックリストを作成し、被監査事業所は、そのチェックリストに基づいて事前に検討会を行ってから内部監査に臨み、限られた時間内で効率良く進めています。



■外部審査

ISO認証取得後も、審査登録機関によるマネジメントシステム審査(内部監査に対して外部審査という)を毎年受けることになっており、1年目、2年目に実施されるサーベイランスと3年毎に実施される更新審査があります。今年の外部審査は、2007年1月に登録を更新後、1年目のサーベイランスであり、審査員2名により、1月29日～30日の2日間かけて、9事業所14部門を審査対象として実施されました。今回は重大な不適合があり、4月にフォローアップ審査を受けました。



《社内環境教育》

■主任内部監査員養成研修

2000年～2006年で内部監査員は計160名を養成しました。今後の内部監査を充実させるためには、監査チームリーダーである主任内部監査員のレベルアップが最重要課題ということになり、2006年9月に「主任内部監査員レベルアップ研修」を行いました。更に、2007年は主任内部監査員養成研修を実施し、新たに25名の主任内部監査員が誕生しました。現在、主任内部監査員の登録は40名になっています。



■環境特別教育訓練

新入社員・異動者・中途入社・派遣社員などに対して、『緊急事態への準備及び対応』と『内部廃棄物の管理』などについて教育訓練を実施します。

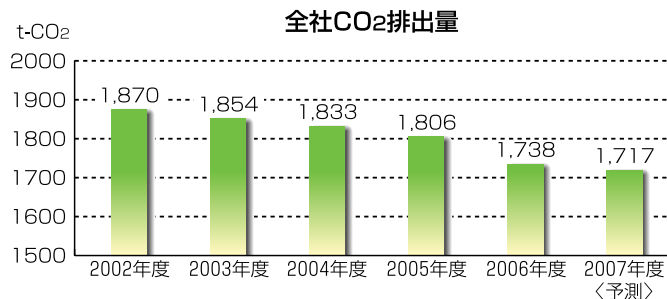
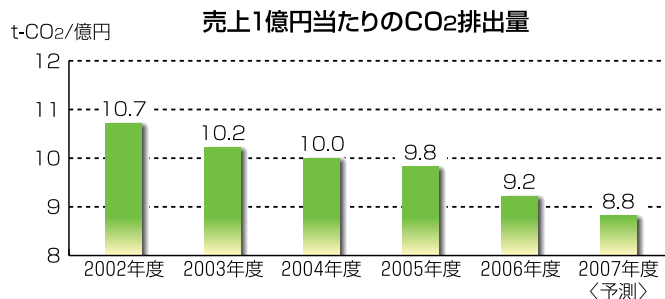
その内容は、

- ①通報手順と火災報知器・消火栓場所の確認
- ②消火器の取り扱い方
- ③避難通路・非常階段の確認
- ④ゴミ分別と捨て場所
- ⑤セキュリティの施錠・解錠方法となっています。



■二酸化炭素(CO2) 排出量

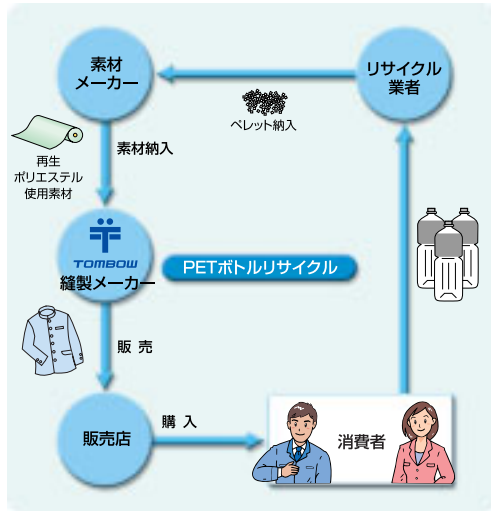
全社規模で二酸化炭素排出量の削減に取り組んでいます。(電気、水道、ガソリン、プロパンガス、都市ガス、灯油、A重油、軽油の8項目)全社の二酸化炭素排出量は、2002年度から2007年度にかけて1,870tから1,717tに減り(▲8.2%)、これを売上1億円当りの二酸化炭素排出量で見ると、10.7tから8.8t-CO2/億円になります。当社の二酸化炭素排出量は、電気、A重油、ガソリンの3項目で全体の94%を占め、特に電気が全体の70%を占めています。



リサイクル・環境負荷低減

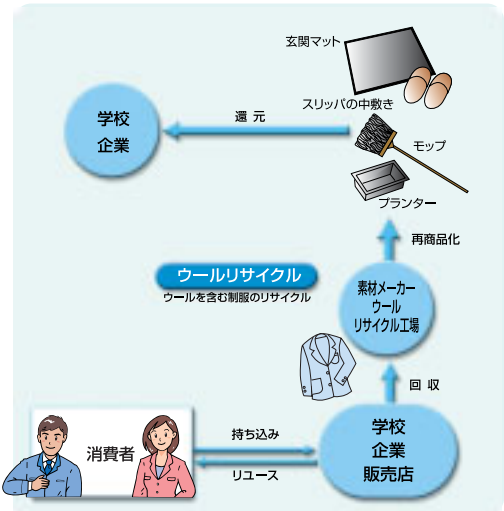
私達、メーカーにとっては製品のLCAを考えた環境負荷低減は、重要なテーマです。ひとつひとつの仕事を見つめなおし、無駄な資源を使わず、有効な資源利用ができるように日々改善に努めています。

■PETボトルリサイクル



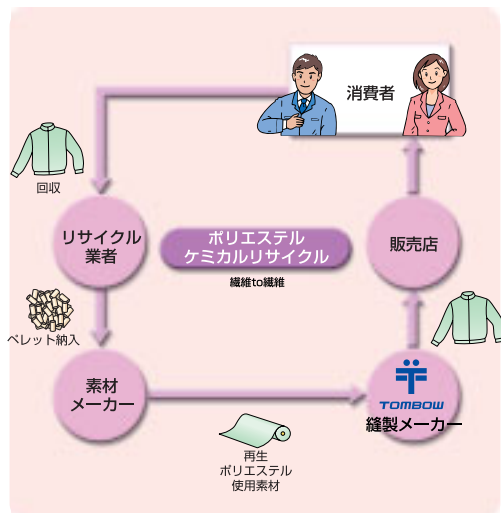
回収したPETボトルを溶かして繊維をつくり、学生服やセーラー服、シャツ、体操服などを製造しています。PETボトルから生まれる再生素材は、もともとポリエステル繊維と同じ組成の物質であるため、繊維にしやすく耐久性にも優れた制服をつくるのが可能です。

■ウールリサイクル



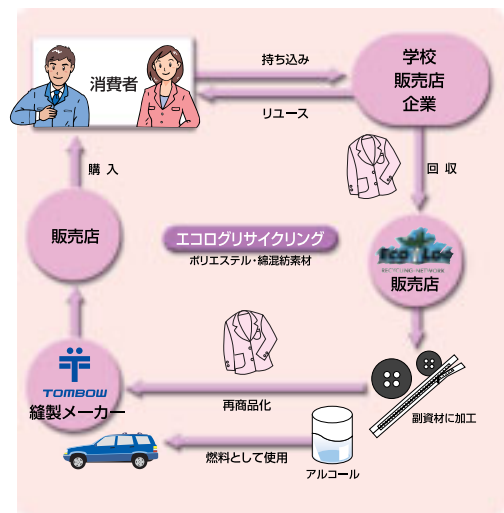
学校や職場で着用された制服を回収し、マットやモップとして再商品化し、還元する「回収型リサイクル」を推進しています。

■ポリエステルケミカルリサイクル



ポリエステル繊維やPETボトル・化成品といった、殆ど全てのポリエステル製品から添加剤、着色剤を分離し、石油から製造する原料と同じレベルの高純度ポリエステル原料(DMT)に戻す高度精製技術です。バージン品と同レベルの原料を再生することで、何度もリサイクルが可能な完全循環型リサイクルシステムです。生産時の使用エネルギー量は約7割(バージン比)、炭酸ガス排出量は約8割と省エネルギー、地球温暖化抑制などの環境負荷低減に大きく貢献します。

■エコログリサイクリングネットワーク

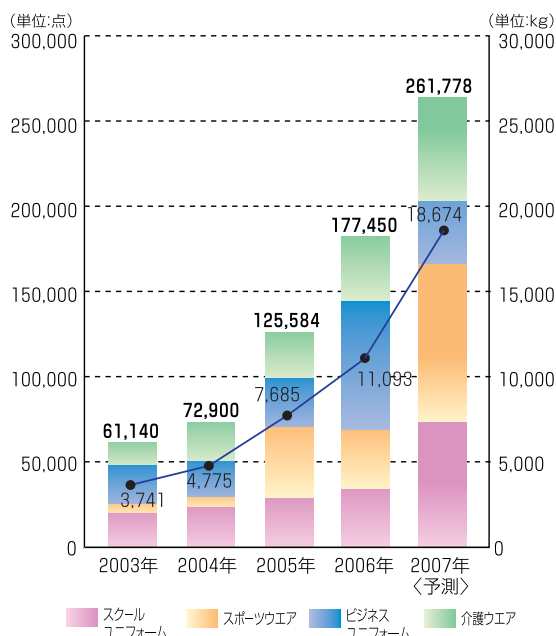


ポリエステルを使用した製品を回収し、分解してポリエステル部分をボタンやファスナーに、綿はアルコールにして車の燃料にするなど、再利用します。このリサイクルシステムは広域認定の許可を受けました。エコログリサイクリングネットワークのマークのついた商品は回収後、指定運送業者により、運ばれ指定工場加工され、リサイクルされます。



オニヤンマ

■エコ商品の販売実績とCO2排出削減量



※繊維製品(衣料品)のLCA調査報告書にもとづくCO2換算(2003年3月版)

■主要商品のLCAデータ

LCAとはライフサイクルアセスメント(Life Cycle Assessment)の略で、製品やサービスのライフサイクル全般において地球環境に与える負荷を分析し、環境負荷の低減を図るための手法です。

商品のライフサイクルにおける環境負荷の値を知ることは負荷削減のための第一歩です。当社の代表的な商品についてLCA手法を用いて環境負荷の値を計算しました。

算定については繊維製品(衣料品)のLCA調査報告書 経済産業省製造産業局 繊維課を基に行いました。

| | アイテム | 混紡率(%) | 素材再生 ペット率(%) | 製造時 消費エネルギー (MJ/メガジュール) | 再生PETに よるエネルギー 節約率(%) | CO2 排出量(kg) | 再生PETに よるCO2排出 削減率(%) |
|----------------|--------|-----------------------|-----------------|-------------------------------|-----------------------------|----------------|-----------------------------|
| スクール ユニフォーム | 女子ブレザー | ポリエステル 60% 毛40% | 60 | 420.2 | 3.1 | 5.8 | 1.9 |
| | スカート | | | 298.7 | 4.7 | 4.4 | 2.0 |
| スポーツ ウェア | ジャージ上 | ポリエステル 95% 綿5% | 63 | 177.6 | 8.0 | 1.3 | 7.2 |
| | ジャージ下 | | | 154.1 | 8.8 | 1.2 | 7.2 |
| 介護 ウェア | ジャージ上 | ポリエステル 95% 綿5% | 63 | 179.1 | 8.4 | 1.4 | 2.8 |
| | ジャージ下 | | | 155.1 | 8.4 | 1.2 | 6.8 |
| ビジネス ユニフォーム | ベスト | ポリエステル 70% 毛30% | 70 | 165.9 | 3.6 | 2.3 | 1.6 |
| | スカート | | | 168.5 | 3.7 | 2.4 | 1.6 |

1ジュールは102g(グラム)の重さのものを1m持ち上げるエネルギー。1メガジュールはその100万倍のエネルギーです。

■製造工程の残反、廃番原反の有効活用

製造工程で発生する端切れ(残反)や廃番になった原反を希望する学校に差し上げています。小学校から高校まで広く、家庭科の授業でマイバッグ製作等に活用されています。これまでに65校を超える学校で取り組まれています。詳しくは下記をご覧ください

http://www.tombow.gr.jp/eco_project/ecogakusyu/index.html



■パッケージにおける負荷低減

詰襟・ブレザーその他のパッケージ素材に「ケナフ・バガス」を使い、大豆油インキで印刷しています。また、各種包装付帯物も、再生紙・大豆油インキやPE・PP・PETなど環境負荷の少ない素材を採用しています。

段ボールケースは共通・共有を進めるために「規格の統一」を進めています。さらに、再利用を可能にするために無地シールを採用し、出荷・回収された段ボールケースの上にこのシールを貼って繰り返し利用しています。



社会とのかかわり トンボの縁で広がる輪

私たちは自然のめぐみとともに生きています。自然やいのちの大切さを学ぶには自ら自然との関わりを体験したり、自然とともに生きてきた伝統的な暮らしを理解する事が大事。そして、環境活動に取り組む人たちと行動を共にし、ネットワークの輪を広げることが大事だと考えています。

■学校ビオトープづくり支援

自然と身近に触れあう上で、命のつながりを感じられる学校ビオトープ活動は地域の自然再生にもつながる良い教材です。環境の大切さを学んでいただくために、ビオトープづくり支援に取り組んでいます。ビオトープとは生物群集が存在できる環境条件を備える地域。生物群の生息場所という意味のドイツ語です。

墨田区立二葉小 2007.11ビオトープづくり 旧観察池をビオトープに改修



土運び



植える植物選び



植物の植え付け



水入れ

■学校ビオトープコンクール支援

「全国学校ビオトープコンクール」は2年に1回開催され、優れた実践校が自らの活動を発表します。学校から地域へビオトープを軸として自然再生の輪が広がっています。私たちは、この活動を支援しています。

主催 財団法人日本生態系協会

<http://www.ecosys.or.jp/eco-japan/>

大袋東小学校



■森の聞き書き甲子園支援

全国から応募した高校生100人が研修を受け、「森の名手・名人100人」をじかに訪れ名人の技や人生を「聞き書き」し、その成果を広く発信します。これまでに600人の卒業生が育ちました。都市と山村、世代を超えた交流は失われつつある伝統的な日本の暮らしや森の大切さを高校生達に教えます。卒業後、共存の森活動として全国4箇所の森・里山で地域の人たちとの交流が始まっています。

共存の森ネットワーク

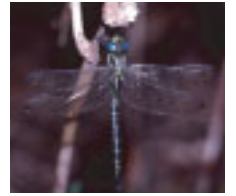
<http://www.kyouzon.org/index.html>



第6回森の聞き書き甲子園フォーラム



植樹活動も体験



ネアカヨシヤンマ

■トンボ王国支援

当社は1986年からサポーターとしてトンボ自然公園づくりに参加しています。ここは、世界初のトンボをテーマとしたビオトープであり、トンボを追いかける子どもたちの遊び場であり、トンボの生態学習室や世界のトンボ展示室があり、子どもたちの遊びの場、学びの場ともなっています。現在では、四万十川水系の魚を展示した「さかな館」もあり、四季を通じて、多くの人々にぎわっています。また、当社は、トンボ・ビオトープづくりを支援してきた「トンボと自然を考える会」の会員であり、多くの社員が個人会員として参加しています。

トンボ王国

<http://www.gakuyukan.com/kingdom/>



トンボ王国あきついお (四万十川学遊館)



■C.W.ニコル氏とともに、長野県「アフンの森」を支援しています

当社のグリーン・アイ活動のエコパイロットであるC.W.ニコル氏は2002年5月31日にアフンの森財団を設立しました。アフン^{※1}の森は、長野県黒姫の飯縄山にあります。放置されたまま、笹の葉とやせた樹木ばかりの荒地だった森を、ニコル氏が私財を投じて買取り、友人や仲間と共に長い年月をかけて手入れし、再生してきました。アフンの森はナショナルトラスト運動を推進するとともに、森の維持管理や動植物の調査・研究・教育のフィールドとして活用されています。

C.W.ニコル アフンの森財団

<http://www.afanomori.com/>



■茨城県「アサザプロジェクト」支援

アサザプロジェクトは、小学生からお年寄りまで、誰もが参加できる霞ヶ浦・北浦流域の自然再生事業です。流域の小学校を中心に170校以上が参加。アサザ^{※2}、マコモなどの在来水草を育てる里親となり、湖岸に植え付けるなど、流域全体に広がる自然再生事業の拠点となっています。アサザプロジェクトは別名“小中学生による公共事業”といわれるほど、子どもたちが重要な役割を担っており、市民は水源の森林・里山の手入れをする一日きりや水草の植え付けなどのボランティア活動などで応援しています。

アサザプロジェクト

<http://www.kasumigaura.net/asaza/>



※1 アフン ケルト語で「風が通る所」という意味。C.W.ニコル氏の故郷ウェールズにある谷の名前から名づけた。

※2 アサザ 池や沼に生える多年生の水草。

地球環境悪化を少しでも改善したい。トンボグループでは持続可能な社会作りに貢献できるように、自然やいのちの大切さを感じてもらう機会の提供や社員の啓蒙、地域・社会とのコミュニケーション活動など、できることに取り組んでいます。

トンボ絵画コンクール

豊かな自然の中に棲む生き物を観察することで自然やいのちの大切さを感じてほしい。そんな思いではじめた事業に理解が広がっています。



1986年、創業110周年記念事業としてスタートしたトンボ絵画コンクールも、はや22回を数え、応募総数151,349点と、日本一に。朝日新聞社、朝日学生新聞社主催、文部科学省や環境省はじめ学校教育やトンボに関わる皆さまのご後援を得て、ここまで大きく育ったわけですが、元はと言えば、「トンボと自然を守ろう」の合言葉のもと、子供たちに絵を描く楽しさや喜びを味わってもらおう、そして、自然や人の営みをしっかり観察する人になってもらおう、さらには、きれいな環境で生息するトンボがいる環境に思いをはせる人になってもらおうと願って始めた運動です。17回目からは高校生にも枠を広げ、ますます広がりを見せています。



一次審査風景



最終審査風景

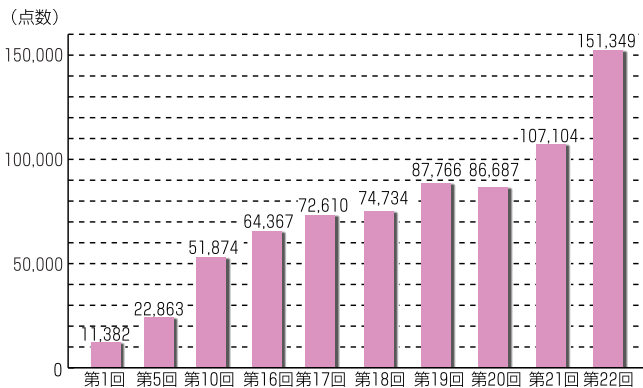


表彰風景



記念撮影

■ 応募数推移



■ 真剣に描く子供たち



トンボスケッチ大会の風景 (写真提供アサザ基金)

入賞作品

<http://www.tombow.gr.jp>

トンボ絵画コンクール

検索



環境大臣賞 小学3年の部



文部科学大臣賞 小学2年の部



環境大臣賞 小学4年の部



文部科学大臣賞 小学1年の部

■主催:朝日新聞社 朝日学生新聞社
 ■後援:文部科学省 環境省 全国都道府県教育委員会連合 全国市町村教育委員会連合会 全国連合小学校長会 全日本中学校長会 全国高等学校長協会 全国中学校文化連盟 全国高等学校文化連盟 全国高等学校美術工芸教育研究会 日本PTA全国協議会 世界自然保護基金ジャパン(WWF Japan) 日本トンボ学会 トンボと自然を考える会
 ■協力:学習研究社・サクラクレパス



ヒメサナエ

環境コミュニケーションと地域貢献

環境への取り組みは人づくりから。できるだけ多くの人に環境の現状を伝え、思いを共有し一緒に改善に向けて行動して欲しい。そんな思いで今できることに取り組んでいます。

■エコプロダクツ展、エコフェスタ参加

毎年12月に東京ビッグサイトで開催される「エコプロダクツ展」に参加しています。来場した小学生達に自社ブースで環境授業をしました。制服1着を作るのにどれだけ沢山のエネルギーが必要かを10kgのペットボトルを持ち上げることで体感、資源を大切にという事を体感してもらいました。10分間環境授業で使用した制服リサイクル工程のキットは希望された学校に差し上げています。その他、地元岡山で開催される「岡山エコフェスタ」では、国産エコマークや岡山県エコ製品、トンボの棲める環境づくりの大切さをアピールしました。



エコプロダクツ展



岡山エコフェスタ
ペットボトルのリサイクル展示

■社員ボランティア清掃

日本三名園のひとつ、後樂園のほとりを流れる旭川の「旭川アダプトプログラム一斉清掃」に岡山地区の社員が年4回参加しています。また、「児島湖流域クリーン作戦」に玉野本社工場、物流の社員が、会社周辺の清掃活動に各事業所の社員が定期的に参加し、地域に貢献しながら環境やボランティアの精神を養っています。



旭川アダプトプログラム

■環境授業

小学校から高校までを対象に消費者環境教育と自然環境学習の出前授業を行っています。ユニフォームのリサイクルや野外体験型授業。ビオトープ作りの支援、里山管理の指導などを行っています。



森の笹刈り体験 都立南平高校



環境出前授業 岡山市立津島小学校

■スクールビオトープメールマガ

学校ビオトープづくりのアドバイスのほか、学校ビオトープに関するメールマガジン「トンボスクールビオトープメールマガジン」の発行も毎月行っています。どなたでもご覧いただけます。

■社員啓蒙

トンボグループ全体に月2回の環境意識啓蒙のために環境事業企画室マンスリーレポートを発行しています。環境用語の解説や体験、セミナー、イベントの報告などを中心にした内容です。



■HP トンボエコフォーラム

2008年3月より「トンボエコフォーラム」のページを作りました。環境学習・授業に関心がある、また、実際にたずさわっておられる学校の先生やNPO法人会員の方々の情報交換の場の提供を目的としています。また、トンボをテーマとした環境学習・授業の代表例として、NPO法人アサザ基金の出前授業を掲載しています。



http://www2.tombow.gr.jp/eco_project/eco_forum/index.html

ビクトリースポーツ教室

■スポーツを通して心の教育を

VICTORYスポーツ教室は、「子供たちにスポーツを通して心の教育を」をテーマに全国の小学校、中学校、高等学校に「憧れのアスリート」が直接赴き、講師となって講演と実技指導を無料で行う画期的なプログラムです。



2001年にスタートから7年目を迎え、39校で開催、講演参加者25,000名超、実技指導参加者3,500名超となりました。昨年度より小学校でも新たに開催し、大変ご好評をいただきました。

〈主催〉朝日新聞社・朝日学生新聞社 日刊スポーツ新聞社
 〈後援〉全国市町村教育委員会連合会 (財)日本中学校体育連盟 (財)全国高等学校体育連盟

(2001～2008.5.30までに実施した学校)

| | | | |
|------|--------------|------|-----------------|
| 北海道 | 札幌山の手高等学校 | 京都府 | 平安女学院中学校・高等学校 |
| 青森県 | 青森市立新城中学校 | 大阪府 | 京都精華女子中学高等学校 |
| 岩手県 | 盛岡市立河南中学校 | | 高槻市立第三中学校 |
| 宮城県 | 利府町立しらかし台中学校 | | 高槻市立第四中学校 |
| | 仙台市立仙台商業高等学校 | | 大阪市立加美南中学校 |
| 福島県 | 郡山市立郡山第三中学校 | | 和泉市立北池田中学校 |
| 茨城県 | 土浦市立土浦第一中学校 | 兵庫県 | 姫路市立谷外小学校 |
| 群馬県 | 伊勢崎市立宮郷中学校 | 和歌山県 | 和歌山県立有田中央高等学校 |
| 埼玉県 | 越谷市立光陽中学校 | | 紀の川市立貴志川中学校 |
| 神奈川県 | 秦野市立渋沢中学校 | 島根県 | 明誠高等学校 |
| | 横浜市立矢向中学校 | 岡山県 | 岡山理科大学附属中学校 |
| 新潟県 | 新潟県立新潟北高等学校 | | 津山市立北稜中学校 |
| 石川県 | 金沢市立西南部中学校 | 広島県 | 広島県立安西高等学校 |
| 長野県 | 佐久長聖中学・高等学校 | | 広島県立福山誠之館高等学校 |
| | 飯山市立第二中学校 | 山口県 | 山口県立下松工業高等学校 |
| 静岡県 | 藤枝明誠中学校・高等学校 | 徳島県 | 徳島県立徳島商業高等学校 |
| 愛知県 | 名城大学附属高等学校 | 福岡県 | 福岡市立福岡中学校 |
| | 刈谷市立刈谷東中学校 | | 福岡舞鶴高等学校・同附属中学校 |
| | 一宮女子高等学校 | 鹿児島県 | 鹿児島市立天保山中学校 |
| | | 沖縄県 | 那覇市立金城中学校 |



<http://www.tombow.gr.jp>

ビクトリースポーツ教室

検索

VICTORYスポーツ教室講師陣 (順不同・敬称略)

- ・衣笠祥雄 (野球) ・村田兆治 (野球) ・山口良治 (ラグビー)
- ・永島昭浩 (サッカー) ・セルジオ越後 (サッカー) ・松木安太郎 (サッカー)
- ・有森裕子 (陸上) ・沢松奈生子 (テニス) ・原田裕花 (バスケットボール)
- ・益子直美 (バレーボール) ・中田久美 (バレーボール)
- ・中垣内祐一 (バレーボール) ・森末慎二 (体操)

制服着こなしセミナー

たかが着こなし、されど着こなし。見かけの重要性とマナーを説く制服着こなしセミナー



■制服着こなしセミナーとは!

制服を着崩す生徒の比率が高まると、学校のイメージがダウンし、また、着る人たちの規範意識が低下し、やる気喪失や注意散漫で、まわりも巻き込み学校環境が悪循環に陥る危険性があります。その対策として、生徒の制服姿を良くする「きっかけ」づくりが制服着こなしセミナーです。

<セミナー内容>

- 服装のルール、常識を生徒に伝える。 ○制服の意味と意義を伝える。
- 制服の場面や機会別のドレスコード (服装規定) を伝える。

➔ **生徒が自分の問題として考える「きっかけ」となる。**

セミナー後 生徒の感想

- ・制服をしっかりと着ることの大切さや将来にもつながっていくことなど、考えさせられました。
- ・着崩しは、バカっぽく見えるので友達にできることなら注意していきたい。

制服着こなしセミナーは、年々要望が多くなり2001年開始以来、延べ650校を超えた学校で開催しています。

<http://www.tombow.gr.jp>

トンボ制服セミナー

検索



アオサナエ

制服文化の香りを伝える、 ユニフォームミュージアム

当社創業120周年を記念して創設された日本唯一のユニフォーム研究開発センター。
センターには、ユニフォームミュージアムと新商品をお見せするショールームが設置されています。



制服発祥の国といわれる英国制服にスポットを当て、
個性的な裁判官礼装や役割別にデザインが異なるホテルマン、
華麗な海軍士官などさまざまな制服を展示しています。

また、誰もが憧れるフライトアテンダントの歴代制服、
学校制服ではセーラー服やブルマーからブレザー、ポロ
シャツなど基本アイテムのルーツをたどっています。
なお、ミュージアムでは随時企画展示を行っており、ご
好評いただいています。



<http://www.tombow.gr.jp>

ユニフォームミュージアム

検索

財団法人 八正会

財団法人 八正会は、岡山県内の高校生に対して奨学金を給付する育英事業団体です。

■八正会の概要

初代社長 三宅保正が「社会へ少しでも恩返しを」との思いから
1956年より私財を投じて始めた育英事業で、1960年に財団法人
設立の認可を受けました。

岡山県内に在住し、県下の高等学校へ進学を希望する生徒に対
して奨学援助を行い、社会に有為な人材の育成を支援しています。
これまでに600名以上の生徒を送り出しています。



入会式



歓送会



夏期研修



やまびこ

■八正会の活動

◎八正会では年4回の研修会を行い、人間性の向上と奨学生同士の
親睦を深めています。

4月 入会式・・・新入会員を迎えて現会員、役員、OBが集います

8月 夏期研修会・・・2泊3日の宿泊研修。ディベートやボランティア活動、レクリエーションなどを通じて交流が深まります

11月 秋期研修会・・・講演会や野外活動を行います

1月 歓送会・・・卒業生を送り出します

◎機関誌「やまびこ」の発行

会員の交流の場として、また会員一人ひとりが自己を省みる場として会員・役員・OB
の執筆による「やまびこ」を年2回発行しています。

<http://www.hasshoukai.or.jp>

財団法人 八正会

検索

私たちは守っています

■知的財産管理

自社権利の保全と法令順守の一環として、産業財産権（特許、実用新案、意匠、商標）と著作権、個人情報保護の管理をおこなっています。特に著作権については、近年インターネットの普及に伴い、さまざまな違法行為が問題となっておりますが、当社では、著作権の権利範囲や使用方法についての社内教育や社外啓蒙をおこなっています。また、併せて個人情報の管理についても「個人情報保護方針」を策定し、運用しています。

■品質管理体制 (ISO9001※1)

品質の確立と品質管理システムの構築の為、1999年10月に、業界の先陣をきって、ISO9002を認証取得(玉野本社工場・岡山工場)し、2002年8月に、ISO9001を生産本部全体に拡大し、品質マネジメントシステムの充実を図っています。

登録範囲:ユニフォームウエアの製造

2007年度のサーベイランスでは、不適合0件、観察事項3件、評価できる事項2件でした。



■有害物質の特定による製品の安全性について

有害物質とは、人の健康や生態系または生活環境に関わる被害を生じる恐れがある有害な物質で政令で定められたものです。メーカーとして、ユニフォームウエア等の企画、設計、製造、販売において、環境影響を考慮し、また地球温暖化防止に向けた活動のひとつとして、「使用原材料に含まれる有害化学物質の安全基準」を順守する必要があります。

対象商品の分類を、「原材料」・「繊維製品」・「非繊維製品」の3つとし、それぞれの有害物質の特定と基準を定め、商品の使用原材料に配慮していきます。

特定有害物質:ホルムアルデヒド、アゾ系染料、ディルドリン、クロム系染料、蛍光増白剤、DTTB、トリブチル錫化合物、トリフェニル錫化合物、有機水銀化合物、カドミウム、鉛、六価クロム、水銀、ニッケル、コバルト、PCPベンタクロロフェノール

■適正な表示対応

家庭用品品質表示法・不当景品類及び不当表示防止法に基づき、適正な品質表示を行い、消費者に製品の性能、取扱い方法、原産国等を伝えます。また、『お客様相談室』に直結するためフリーダイヤル表示をしています。尚、製造ロット番号からは、生産履歴が分かり、トレーサビリティ※2を可能にしています。

いきいきと働ける職場づくり

■健全な労使関係

労働組合「トンボユニオン」と健全な労使関係にあり、従業員の労働条件などについて交渉・協議を行っています。

■託児所施設

従業員が安心して働ける環境を整えるために、1歳から5歳までの乳幼児を預かる託児所を玉野本社工場内に設けています。

| | 2003年 | 2004年 | 2005年 | 2006年 | 2007年 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 託児所利用者(人) | 13 | 11 | 12 | 10 | 17 |

■育児休業・介護休業制度

1年間(最長1年6ヶ月)の育児休業制度ならびに6ヶ月間の介護休業制度を設けています。

| | 2003年 | 2004年 | 2005年 | 2006年 | 2007年 |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 育児休業取得者(人) | 2 | 5 | 0 | 4 | 1 |

■再雇用制度

60歳定年後も引続き勤務する意思のある人を対象とした再雇用制度を設けています。

| | 2005年 | 2006年 | 2007年 |
|------------|-------|-------|-------|
| 定年到達者(人) 男 | 4 | 4 | 4 |
| 女 | 6 | 14 | 21 |
| 再雇用者(人) 男 | 1 | 2 | 2 |
| 女 | 1 | 7 | 11 |

■障害者雇用

障害を持った方がいきいきと働ける職場作りを目指しています。

| | 2003年 | 2004年 | 2005年 | 2006年 | 2007年 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 障害者雇用率(%) | 2.02 | 1.98 | 1.76 | 1.69 | 1.63 |



タイワンウチワヤンマ

■セクシュアルハラスメント対策

セクシュアルハラスメントに対して理解の促進と問題発生の防止のために、外部講師によるセミナーを開催しています。また、各事業所毎に相談窓口を設置し、問題があった際にも迅速な対応ができる体制を作っています。



■メンタルヘルス対策

こころの病に対して正しい知識やセルフケア、職場での対処方法などを理解してもらうために、専門の先生によるセミナーを開催しています。

■こころの健康相談室の設置

非常にストレスの多い社会において、仕事だけでなく様々な悩みを気軽に相談にのってもらい、気持ちよく仕事に取り組んでもらうために、第三者機関と契約し相談窓口を設置しました。利用については社員だけでなく、社員の家族（配偶者、親、子供）も可能となっています。

■トンボでは人材育成を3つの側面から構成し、個人の能力アップをサポートしています

1. トンボスクール（能力開発研修）

2006年より教育体系を更に充実し、トンボスクールに発展・改組

トンボスクール

社内研修

- | | | |
|---|---|---|
| <p>① 専門職能資格者研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副主事研修 ・評価者研修 初級・中級 ・マネジメント研修 <p>④ 一般研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルス研修 ・セクシュアルハラスメント研修 ・EMS、QMS内部監査員養成研修 | <p>② 階層別研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入社員研修、新入社員フォロー研修 ・一般職研修 初級・中級 ・総合職研修 初級・中級 <p>⑤ グループ会社研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セールス研修 | <p>③ 専門別研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セールスパワーアップ研修 ・ビジネス計数研修 ・プレゼン力アップ研修 初級・中級 ・MD力アップ研修 初級・中級 |
|---|---|---|

外部派遣研修

- ・幹部候補生スクール
- ・修養団みながく講習会
- ・QCスクール
- ・パターンメイキング
- ・マーチャンダイジング
- ・繊維素材の基礎知識
- ・品質管理、苦情事例研究
- ・その他

2. 目標によるマネジメント

期首に個人の1年間の目標を立て、自律的なマネジメントサイクルにより目標達成を目指します。目標の設定は会社の方針と個人目標を連動させ、また個人の3年後のビジョンも考えてもらいます。目標の設定、半期面接、期末面接の節目では常に上司と部下で話し合いが持たれます。

3. 自己啓発援助

通信教育を推奨しており、受講期間内に修了した場合には受講料の援助金が給付されます。今年も190名と多くの方が受講し、修了者152名で、修了率は80%となっています。講座の内容としては、一般教養コース、能力向上コース、資格取得コース、と様々な準備されています。更に昇格要件のコースもあり、人事制度とも連動しています。

■その他 社員の努力を評価、表彰する制度があります

1. 提案制度

業務改善活動として、個人でおこなう「個人提案」と、チームでおこなう「チーム提案」があります。提案用紙や報告書、発表会などをとおして審査・表彰され、賞金が支給されます。2006年度の総提案件数は2,761件で1人平均4.6件でした。

2. 資格制度

自己啓発の一環として、資格取得を応援しています。会社が奨励する資格取得者には、お祝い金が給付されます。

| | 2007年 | 2007年累計 |
|---------------------|-------|---------|
| ・衛生管理者 | 1 | 9 |
| ・日商簿記 | 0 | 1 |
| ・システムアドミニストレーター | 0 | 2 |
| ・危険物取扱者 | 0 | 3 |
| ・技能士（縫製、パターン、設備補修等） | 5 | 34 |

| | 2007年 | 2007年累計 |
|--------------------|-------|---------|
| ・繊維製品品質管理士（TES） | 1 | 20 |
| ・販売士 | 2 | 8 |
| ・ビオトープ計画管理士 | 0 | 1 |
| ・ファッションコーディネート色彩能力 | 0 | 1 |



制服と青春の思い出

制服と青春



中学に入学した時は158cm。そして高校に入学した時は187cm。高校を卒業する頃には192cm程になりました。

正確には記憶していませんが、着るもの、履くもの全てがあつという間に小さくなっていったような気がします。



福井の片田舎ではなかなか体に合う大きいサイズが見つけられず、いつも袖が短くて堂々と出来ず、身長は大きいコンプレックスでした。皆と同じ様に制服を格好良く着たいと思ったものです。その後バレーボールを始めて身長を自信に繋げることができました。



しかし、中学2年で175cmだった頃のズボンと、今193cmのズボンの丈が全く同じなのにはどこか納得がいきません。



中垣内 祐一さん

オリンピックや世界選手権、ワールドカップの代表選手として活躍。最高殊勲選手賞2回、ベスト6は5回。05年監督賞受賞。

夫婦と学生服の思い出

主人の逸見政孝と出会ってから、早大時代の1枚の写真を見せてもらいました。高下駄を履き、角帽をかぶった学生服の写真です。「もてなかった」と笑っていましたが、主人にとっては大好きな写真だったようです。私自身は中学でVのノーカラー、高校でダブル型の制服を着ていました。

平成教育委員会での主人の制服姿が印象に残っていると思いますが、出演が決まった当初は、先生役だと思っていたのです。そうしたところ、実は学生役とい



うことで、自ら学生服の着用を提案しました。年をとってこんなに制服が似合うのは自分だけだと張り切っており、母校の講演会にもその姿で登場し、盛り上がっていました。



逸見 晴恵さん

夫・逸見政孝（元フジテレビアナウンサー）とのガン闘病生活や自身のガン経験を世に伝え続ける。（株）オフィスいつみ取締役社長。

誇りとなった学生服

4人兄弟の末っ子として生まれましたが、出来の良い兄姉たちに囲まれ学校では比較され続けていました。中学時代は先生に「成績の良い人達の邪魔をしないように」などと言われ、学校にもほとんど通わず尖っていましたね。



父の助言もあり高校に入学することができましたが、そこで大きな出会いがありました。とても褒めてくれる担任の先生で、「やればできる」「人間はいつでも変わることができる」と教えてくれたのです。ですから、高校時代は学生服のボタンもバッチも私の誇りでした。今は講演で学校へ行きますが、やっぱり学生服はかっこいいですし、大事なものだと感じています。



北原 照久さん

ブリキのおもちゃコレクターの第一人者であり「開運!なんでも鑑定団」(テレビ東京)で鑑定士として活躍中。横浜ブリキのおもちゃ博物館の館長。



トンボひとくちメモ

日本はトンボの国

その昔、日本のことを「秋津洲」と呼んでいました。「あきつ」とはトンボの古い呼び名。つまり、日本はトンボの国だったのです。日本書紀によると、大和の地で即位された神武天皇が小高い丘の上から国見をされた折、「あきつのとなめ（交尾）せるが如くあるか」と仰せられたことがきっかけとされています。

トンボは勝虫

古事記によると、雄略天皇が狩りをされた時、休憩中に虻（アブ）が腕を刺しました。そこにトンボがやってきて、そのアブをさっと捕まえていったそうです。同天皇はこのことを歌に詠まれ、それ以降トンボは「勝虫」と称され特に戦国時代の武将達に勝利の証として貴ばれるようになったそうです。

トンボの天敵は？

トンボは世界で5,000～6,000種類いるといわれています。日本では約200種類が知られています。高知県四万十市の「トンボ王国」では、その中の74種類のトンボを見ることができます。トンボは幼虫（ヤゴ）・成虫共に肉食です。自分より大きな昆虫にも向かっていくトンボの一番の敵は、自然を破壊する「人間」にはかなりません。

トンボCSRレポートに関するお問い合わせ先

株式会社トンボ 環境・CSR推進室

〒700-0985 岡山市厚生町2丁目2-9 E-mail kankyo@tombow.gr.jp TEL. (086) 232-0368 FAX. (086) 225-6680

※当レポートに掲載されている内容・写真の無断転載はお断りします。

CSRレポートとは

企業が、環境や社会問題などに対して倫理的な責任を果たすべきであるとするCSR（企業の社会的責任）の考え方に基づいて行う、社会的な取り組みをまとめた報告書。持続可能性報告書とも呼ばれ、企業の環境、労働、安全衛生、社会貢献などに関する情報や、事業活動に伴う環境負荷などを幅広く公開する。近年、さまざまなステークホルダーに対する説明責任を果たすコミュニケーション手段の一つとして環境報告書からCSR報告書へ移行する企業が年々増加傾向にある。



第22回「We Loveトンボ」絵画コンクール
環境大臣賞 小学1年の部 安永 舟



人と自然を大切にしたい価値ある製品づくりを

株式会社 **トンボ**

トンボCSRレポート

検索



印刷用紙は、適切に管理された森林で生産されたことを示すFSC森林認証紙を使用。インキは環境負荷の少ない植物性大豆インキを使用しています。